

景気観測(LOBO)

《2022. 7~9月》

令和4年度 第2四半期

日立商工会議所
情報化委員会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合 (%)
製造業	25	22	88%
小売業	25	18	72%
建設業	25	23	92%
サービス業	25	18	72%
計	100	81	81%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

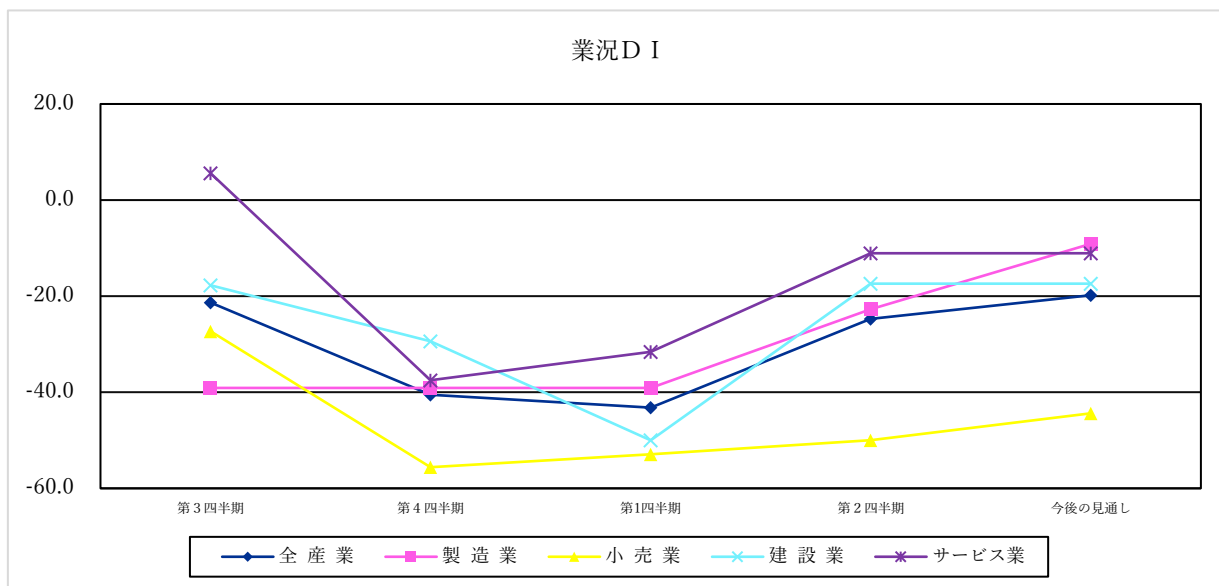
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ・DI = (増加・好転・不足等の回答割合) - (減少・悪化・過剰等の回答割合)

II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲24.7と前回調査時(▲43.2)より18.5ポイントの回復。今後の見通しでは▲19.8(前回調査時▲34.6)と14.8ポイントの回復。
- 製造業では、▲22.7ポイントと前回調査時(▲39.1)から16.4ポイント回復。今後の見通しは、▲9.1(前回調査時▲21.7)で12.6ポイントの回復。
- 小売業では、▲50.0と前回調査時(▲52.9)より2.9ポイント回復。今後の見通しは▲44.4(前回調査時▲35.3)と9.1ポイント悪化。
- 建設業では、▲17.4と前回調査時(▲50.0)より32.6ポイントの大幅な回復。今後の見通しは▲17.4と前回調査時(▲45.5)より28.1ポイントの回復を見込む。
- サービス業では、▲11.1と前回調査時(▲31.6)から20.5ポイントの改善。今後の見通しは▲11.1と前回調査時(▲36.8)より25.7ポイントの回復。

(1) 業況D I の推移とキーワード

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 21.3	▲ 40.5	▲ 43.2	▲ 24.7	▲ 19.8
製造業	▲ 39.1	▲ 39.1	▲ 39.1	▲ 22.7	▲ 9.1
小売業	▲ 27.3	▲ 55.6	▲ 52.9	▲ 50.0	▲ 44.4
建設業	▲ 17.7	▲ 29.4	▲ 50.0	▲ 17.4	▲ 17.4
サービス業	5.6	▲ 37.5	▲ 31.6	▲ 11.1	▲ 11.1



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	値上げ交渉	電気料金高騰	半導体不足
小売業	仕入価格上昇	買い控え	最低賃金上昇
建設業	燃料・資材高騰	人件費UP	インボイス制度
サービス業	燃料高騰	人手不足	利益圧迫

《全国との比較》

	令和4年度第2四半期		今後の見通し(10月~12月)	
	全国(9月)	日立	全国	日立
全産業	▲23.3	▲24.7	▲23.7	▲19.8
製造業	▲23.3	▲22.7	▲20.5	▲9.1
小売業	▲31.9	▲50.0	▲35.1	▲44.4
建設業	▲28.7	▲17.4	▲23.7	▲17.4
サービス業	▲11.4	▲11.1	▲17.1	▲11.1

(2) 売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移 (D I 値)

(売上高)

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 15.0	▲ 39.2	▲ 28.4	▲ 18.5	▲ 18.5
製造業	▲ 39.1	▲ 30.4	▲ 26.1	▲ 4.6	0.0
小売業	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 58.8	▲ 50.0	▲ 61.1
建設業	▲ 17.7	▲ 52.9	▲ 27.3	▲ 34.8	▲ 17.4
サービス業	33.3	▲ 50.0	▲ 5.3	16.7	0.0

(採算)

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 32.5	▲ 50.0	▲ 48.2	▲ 35.8	▲ 30.9
製造業	▲ 52.2	▲ 52.2	▲ 56.5	▲ 31.8	▲ 13.6
小売業	▲ 45.5	▲ 55.6	▲ 64.7	▲ 66.7	▲ 61.1
建設業	▲ 23.5	▲ 47.1	▲ 40.9	▲ 34.8	▲ 30.4
サービス業	0.0	▲ 43.8	▲ 31.6	▲ 11.1	▲ 22.2

(仕入単価)

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 70.0	▲ 79.7	▲ 84.0	▲ 76.5	▲ 71.6
製造業	▲ 73.9	▲ 78.3	▲ 82.6	▲ 77.3	▲ 59.1
小売業	▲ 54.5	▲ 88.9	▲ 82.4	▲ 83.3	▲ 83.3
建設業	▲ 82.4	▲ 82.4	▲ 95.5	▲ 78.3	▲ 73.9
サービス業	▲ 72.2	▲ 68.8	▲ 73.7	▲ 66.7	▲ 72.2

(販売単価)

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	20.0	18.9	27.2	29.6	17.3
製造業	21.7	13.0	17.4	50.0	36.4
小売業	31.8	44.4	47.1	50.0	50.0
建設業	11.8	11.8	40.9	17.4	21.7
サービス業	11.1	6.3	5.3	0.0	0.0

(従業員数)

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	15.0	10.8	4.9	12.3	17.3
製造業	▲ 13.1	4.4	▲ 17.4	▲ 9.1	0.0
小売業	9.1	16.7	17.6	16.7	11.1
建設業	41.2	17.6	13.6	30.4	30.4
サービス業	33.3	6.3	10.5	11.1	27.8

(資金繰り)

	令和3年度		令和4年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全産業	▲ 20.0	▲ 28.4	▲ 25.9	▲ 16.1	▲ 19.8
製造業	▲ 21.7	▲ 17.4	▲ 21.7	▲ 13.6	▲ 4.6
小売業	▲ 40.9	▲ 55.6	▲ 47.1	▲ 38.9	▲ 44.4
建設業	0.0	▲ 23.5	▲ 13.6	▲ 4.3	▲ 21.7
サービス業	▲ 11.1	▲ 18.8	▲ 26.3	▲ 11.1	▲ 11.1

(3) 業種別概況

業種	概況
製造業	<p>今期、業況感は前年第3四半期からの悪化状態から回復。価格交渉により販売価格が上昇、売上・採算ともに回復した一方で、依然仕入コスト上昇が続き価格への反映が間に合わないとの声も。受注の回復が見られるものの、半導体不足をはじめ、原材料の供給不足も懸念される。</p> <p>個別では「売り上げはやや上昇傾向にありますが、まだ半導体不足が尾を引いている様子です（組合）」「仕入単価の上昇、電気・ガス・水道なども上昇が止まらない！価格改定のお願いを続けている。すべてのお客様からの回答にはまだ時間がかかりそうだ（金属製品製造業）」「値上げ交渉中。材料・電気・油・工具、消耗品の値上げ（輸送用機械器具製造業）」「材料費高騰分が製品に転嫁され多少売上高はアップした（電気機械器具製造業）」「販売単価が電力料金、原材料の料金UPに追い付いていかない。作業量としては若干減少（鉄鋼業）」「コロナ禍によるインフラ関連投資の縮小等により、受注が減少しているが少しずつ持ち直しの兆しがある（電気機械器具製造業）」「自動車部品の供給不足による生産変動の影響が大きい。今後も半導体などの部品不足が続く（輸送用機械器具製造業）」などの報告があった。</p>

<p>小 売 業</p>	<p>業況感は、今期で大きく回復を見た他業種と比較して控えめな回復となった。売上でやや回復したものの、採算では回復に至らず、人流が微増ながら戻りつつあった今期、仕入価格や経費の上昇により、思うように業績回復に反映できていない様子が伺える。価格転嫁に苦慮する声、物価高による消費マインドの冷え込みが懸念されている。</p> <p>個別では「8月は昨年比客足も戻ってきたが、後半は動きが鈍くなった。10月以降の原材料の値上げが止まらない為、細かな売値の変更に追われている。値上げが追い付かず粗利が減ることもある。最低賃金の上昇により、パート・バイトなどを雇いにくくなるため今後が心配（菓子製造業）」「他業種同様仕入れ価格が上昇している（スポーツ用品小売業）」「増加とはいえ微増ではあるが、人流は増えてきているのではないかと。徐々に各種の値上げが来ている。今後、最低賃金への対応や恒常的な物価高には内部での対応では難しく価格の見直しが急務である（飲食料品小売業）」「消費者物価上昇で買い控えが起きる。原材料や資源価格が上がり転嫁できない（菓子製造業）」「価格高騰による買い控え。原油価格の推移、冬場の暖房用灯油の価格（燃料小売業）」「華道教室の生徒様の減少により需要が減った（花・植木小売業）」「客数減。様々な営業経費アップと仕入れ価格アップが利益を圧迫している。10月には最低賃金の改定、社会保険適用枠の拡大もあり、これまで以上の経費増になることは避けられない。支出経費の見直しやロス削減に注力するとともに、高利益商品の拡販や客単価が上がるような商品構成への見直しを進めている（食品スーパー）」などの報告があった。</p>
<p>建 設 業</p>	<p>業況感は昨年度第1四半期からの悪化傾向から回復したものの、売上では悪化している。工事案件の減少報告が多数あり、資材高騰により設備投資が先送りされているとの声も。</p> <p>個別では、「得意先に円安、部材単価上昇等による設備投資の先送りが見られる。防災、減災、国土強靱化のための公共投資の発注は堅調に推移している（総合建設業）」「資材高騰、材料遅延（総合建設業）」「仕事量は前年と比較して遜色ない程度回復しているが、資機材の仕入れ価格の上昇や人件費のアップなどで採算の悪化が今後も懸念される（総合建設業）」「値上げにより消費者の買い控え（工事控え）。法律改正による経費費用の増加。これからの時代に対応できる会社運営方法。カーボンニュートラル時代に対応できる新しい材料・工法等の構築。技術者・技能者の育成（激減中）（建築材料卸売業）」「アスベスト工事に対する国の規制強化（職別工事業）」「物件数の減少。仕入価格の上昇（設備工事業）」「資材・人件費は今後上昇していくと思われるが、競争もある。販売額にすべて反映させるのは難しい（設備工事業）」「景気は上がり続けることも下がり続けることもありません。正しい情報を得て正しい生業を行うこと、そして如何に感情を入れずに当初計画したものを機械的に遂行できるか、そこを意識していきたい（総合建設業）」などの報告があった。</p>

サービス業	<p>業況感は回復基調。バス利用客や飲食業、宿泊業で若干の客足の戻りが見られたが、コロナ以前と比較すると未だ回復には至らず。物価上昇の状況から、先行きでは悪化を見込む。</p> <p>個別では、「ロシアのウクライナ侵攻影響による燃料が高騰したまま下がらない状況が継続しており、経営を圧迫している。製品梱包時に使用する木材については未だに高騰が続いている。第1四半期は中国のロックダウンの影響により輸出入が停滞していたが、それが解除されたことにより材料調達は回復傾向にある。バス事業については高速バス、観光バスの需要が回復傾向にあるが、コロナ禍前の水準には程遠い状況が続いている（物流業）」「昨年より微増なだけでコロナの影響はまだまだ。宴会関係のお客様に早く戻ってほしいです（飲食業）」「経費上昇分を輸送運賃に転嫁できず廃業の会社が出ている（一般道路貨物運送業）」「前年度は新型コロナウイルス感染拡大により、バス（特に高速、貸切）等の売上高が落ち込んだが、今月はWith コロナ施策等により、売上高が回復傾向。ウクライナ紛争長期化による資源（特に軽油）価格の高止まりを懸念。為替の円安続伸・物価の上昇等に伴う経営環境悪化への対策として運賃値上を検討。新型コロナウイルス感染症対策支援・助成制度の継続拡大を要望（道路旅客運送業）」「物価上昇により商材が値上げされている。仕入が上昇、販売単価を上げると来店サイクルの延長に繋がる、結果利益の減少になると考えられる。人口減少、店主の高齢化が顕著である（理美容業）」「人員不足により、来春新卒（高校・大学）募集していますが、応募がない、中途が来ない状況が続く（一般道路貨物運送業）」「社会状況が、コロナ社会との共存共栄とシフトチェンジしたことにより、外出・出張等の頻度は上昇してきている。またユニバーサルタクシー利用者も微増していることで、今後の見通しはやや上昇と判断しました。しかし種々の援助等が打ち切られることは確実なので、資金繰りにおいてはひっ迫するのではと想像しました（一般乗用旅客自動車運送業）」「今期、宿泊部門は好調に推移。今後3カ月は飲食部門の予約状況が鈍化（ホテル業）」などの報告があった。</p>
-------	---